

## 吹奏楽部 東海大会を終えて ～部員・顧問のコメント～

部長：小瀬木世那

僕は「今の部活が大好き」です。ここに至るまでとても長い道のりと沢山の壁、沢山の思いやりがあってこそこの感情です。

今年度は「咲」(さく)という部目標を掲げ、僕たちはコロナ禍でなかなか活動ができない中、少ない時間で濃い活動をしようと努力しました。最初はどのような活動が良いか話し合い、試行錯誤することを繰り返してきましたが、なかなかうまくいきませんでした。そこで支えてくれたのが仲間です。小さな声にも耳を傾け、皆で乗り越えたからこそ、今の僕たちがいます。皆には本当に感謝しています。

そして部長として意志が強くなった一年でもありました。“こうなりたい”という理想を求める感情が一番背中を押してくれました。だからこそやりたいことが沢山見付き、悔しいこともあって沢山の涙を流した一年でもあります。

今、夢中になって活動しているこの部活は日本一輝いていると胸を張って言えます。ここで出会えた仲間は本当に大切です。だからこそ日頃からの感謝を忘れずに、そして長野県を引っ張る存在として、皆様に元気と勇気を与えられる存在になれるよう、日々の活動に全力で向き合っていきます。

コンサートミストレス：原沙里花

私は毎日隣にいてくれる皆のために、自分なりの精一杯の思いで活動しようと努力しています。私たち部員は、どんなに違う考えを持っていてぶつかることがあっても“音楽したい”という気持ちはいつでも同じです。ですので、私は皆を信じることができ、終わりも答えもない“素晴らしい音楽”を求めて、夢中で駆け抜けてきました。奇跡のように巡り会えた仲間と、音楽を通してかけがえのない時間を共有できることが、私にとっての1番の幸せであり青春です。音楽は、形として残らなくても永遠と心に刻まれる大切な宝物です。そして、私たちにゴールはありません。小諸高校のサウンドでたくさんの方々を魅了すべく、今日も前を向いてどこまでも歩み続けます。

顧問：高砂佑介

東海大会金賞、全国大会まであと一歩。今年は特別な思いで、結果と努力を受け止めています。

今年は特に、当たり前のように過ごしていた一日の大切さや、皆で集って活動できることの意義の重みを、身をもって感じました。しかし私たちは「思うようにいかない」逆境をチャンスにとらえ、短時間練習の質と徹底度をとにかく高めよう！と練習に励みました。振り返ればコロナ禍は本当に大変でしたが、私たちは何があっても皆で感情を分かち合い、そして諦めずに音楽に向き合うことのできる団体に成長しました。本当の意味で悔いのない一日を過ごせるようになりました。コロナ禍は私たちに問題意識や、活動時間のありがたみを再確認するチャンスを与え、成長させてくれたきっかけでもありました。

私たちはこれからも謙虚に、何があっても前を向いて練習し続けます。皆様に最高の音楽をお届けし、そして長野県の吹奏楽界を盛り上げていくことのできる集団を目指していきます。